

研究者・学生と大学図書館

—図書館休館対策プロジェクトからみえたこと—

前田麦穂

(独立行政法人日本学術振興会特別研究員PD／兵庫
教育大学)

mugiho@hyogo-u.ac.jp

本日の構成

- 0 自己紹介
- 1 はじめに
- 2 調査の概要と回答者の特徴
- 3 研究者・学生による通常時の図書館利用
- 4 休館による研究者・学生への影響
- 5 おわりに
- 引用文献

1 はじめに

1 はじめに

- 最初に頂戴した講義依頼：「大学図書館に期待するもの」??
 $\Sigma(\cdot\omega\cdot)/$
- そんな（偉そうな）講義をできるような身分ではないので…
- 「大学図書館の『ポストコロナ』に向けて、どうサービスを再開・復旧していくか？」
- を皆さんが考える際に役立つような、利用者（大学関係者≡研究者・学生）の経験やニーズをデータからお伝えできれば

（…とは書いたものの、結局のところ必要なのは「災後」ではなく「災間（災害と災害のあいだ）」の思考かもしれない）

1 はじめに

- 「**図書館休館対策プロジェクト**」とは：
 - 社会科学系の若手研究者を中心に設立された有志の集まり
 - 活動の目的：新型コロナウイルス感染拡大に伴う図書館の休館等によって研究活動の実施が困難となっている研究者のために、図書館休館に伴う代替的支援施策を求めること
 - ウェブサイト：<https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website>
 - ※活動の経緯や成果は前田（2020b）を参照

1 はじめに

今日メインでお話する
ところ

- プロジェクトの活動：
 - 2020年4月、「**図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート**」を実施
 - 2020年5月、「**大学図書館等の閉館を維持したままで可能な緊急支援施策に関する要望書（第1次）**」を政府機関・関連団体・国会議員等（計30件）に提出



1 はじめに

- プロジェクトの活動（続き）：
 - 2020年8月、文化審議会著作権分科会法制度小委員会「**図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチーム**」第1回会合にて、図書館等関係団体とともにヒアリング出席
 - 2021年2月、**自由民主党 知的財産戦略調査会・デジタル社会推進知財活用小委員会**にて、図書館関連団体とともにヒアリング出席 など



日本図書館研究会編『図書館界』2021年7月号に書きました（印刷中）

のちほど★グループワーク★します

- お題：「コロナ対応として、貴館ではどのようなサービス変更を行いましたか？ それにはどのような利用者からのニーズやリアクションがありましたか？」
- 5名ずつのブレイクアウトセッション（7分間程度）
- 受講番号が一番小さい方、すみませんが司会をお願いします
- 受講番号が一番大きい方、すみませんがグループで出た内容の発表をお願いします

2 調査の概要と回答者の特徴

2 調査の概要と回答者の特徴

調査目的	新型コロナウイルス感染拡大の影響による図書館の休館やサービス縮小が、研究（※）の実施に生じている困難の現状を明らかにすること。 （※）「研究」には、研究者（大学・民間企業等の所属は不問）や学生（大学院生・大学生・研究生等）によるものなど、広範な意味での研究活動を含めている。
調査対象	広義の研究者（大学・民間企業等の所属は不問）及び学生（大学院生・大学生・研究生等）
有効回答数	2,519名
調査期間	2020年4月17日（金）～2020年4月30日（木）
調査方法	インターネット調査（メーリングリスト、SNS、ウェブサイト等を利用）

2 調査の概要と回答者の特徴

神戸大学附属
図書館利用者
アンケート

弘前大学附属
図書館利用者
アンケート

緊急アンケート

個別大学を越えた動
向はつかみにくい

学外者や周辺的な構
成員のニーズはつか
みにくい

それぞれの弱点をカ
バーしたデータになっ
ているかも??

他種別の図書館の利用行動
やニーズは把握できない

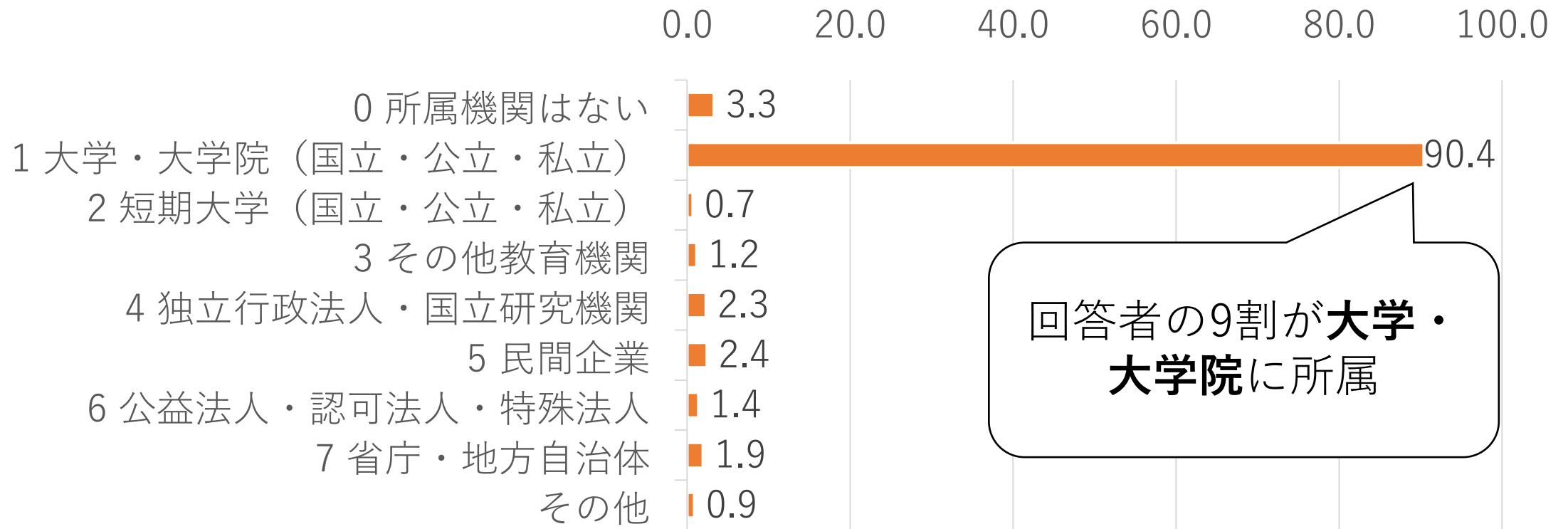
国立国会図書館「図書館利用者の情報行動の傾
向及び図書館に関する意識調査」

研究者・学生はもの
すごくマイノリティ
で把握しにくい

公共図書館に関する質問はあるが、大
学図書館の利用行動やニーズは把握で
きない

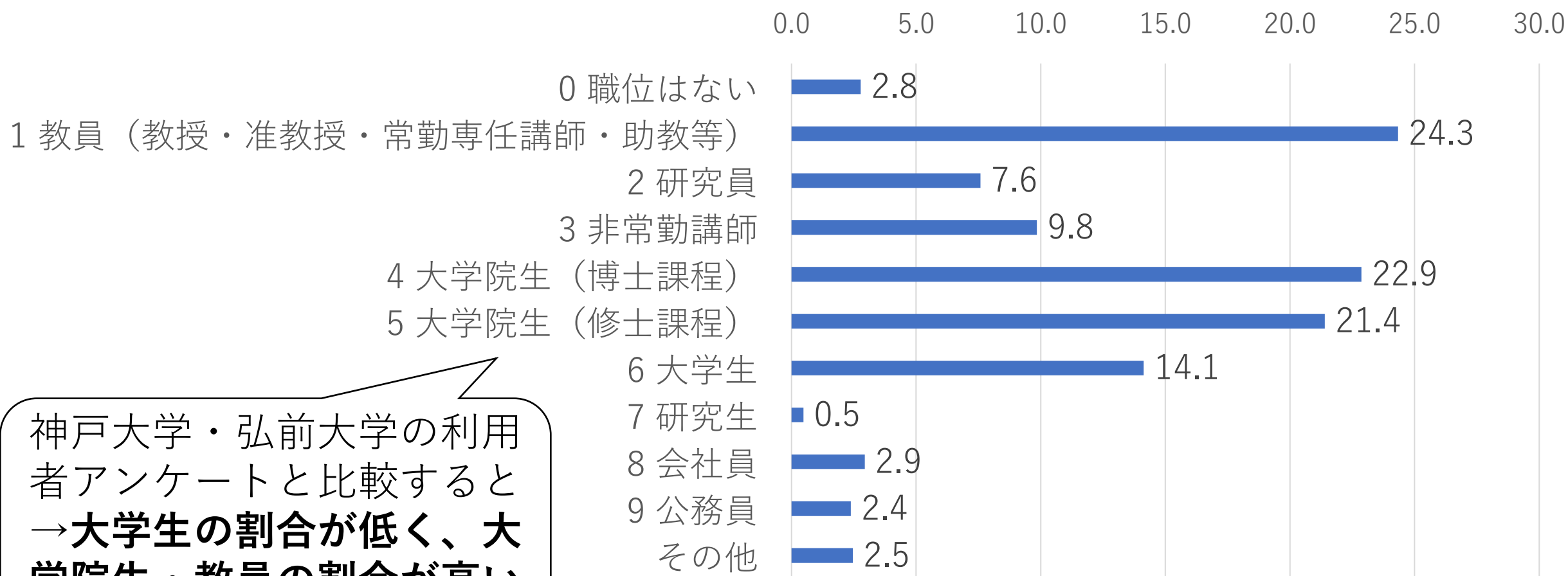
2 調査の概要と回答者の特徴

F1 所属機関（複数選択） [n=2,519, 単位：％]



2 調査の概要と回答者の特徴

図1 職位（複数選択）[n=2,519, 単位：％]

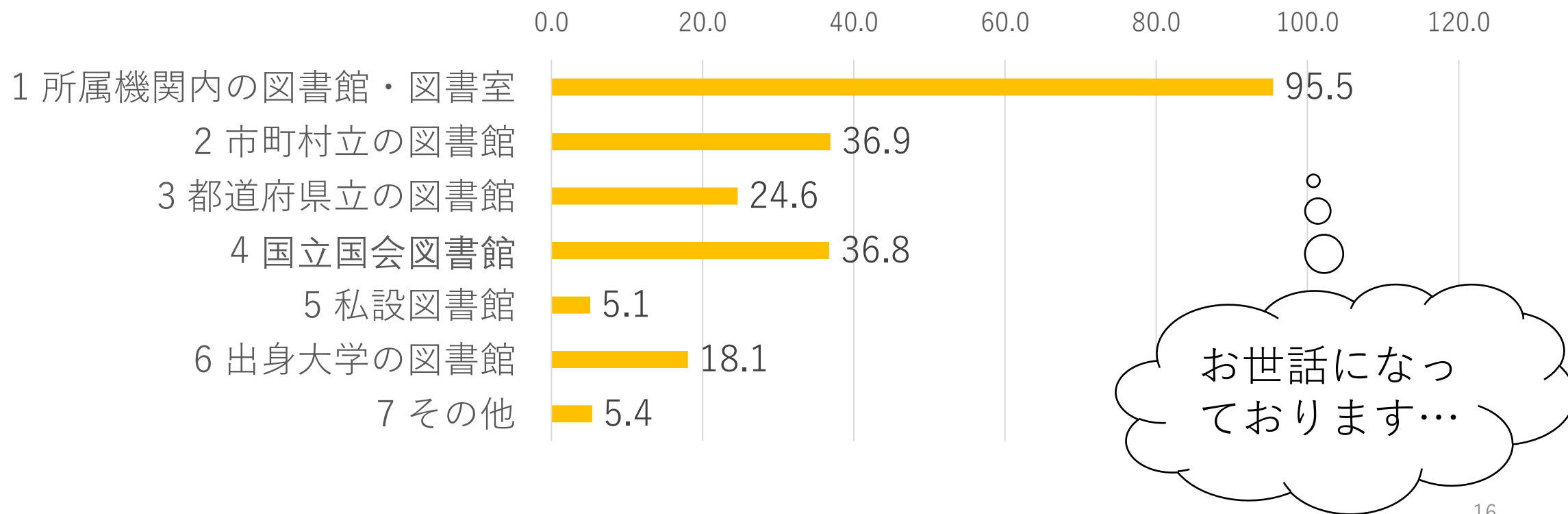


神戸大学・弘前大学の利用者アンケートと比較すると
→**大学生の割合が低く、大学院生・教員の割合が高い**

3 研究者・学生による通常時 の図書館利用

3 研究者・学生による通常時の図書館利用

図3 大学・大学院に所属する者（2,277名）が研究のために
利用する図書館（複数選択）[%]

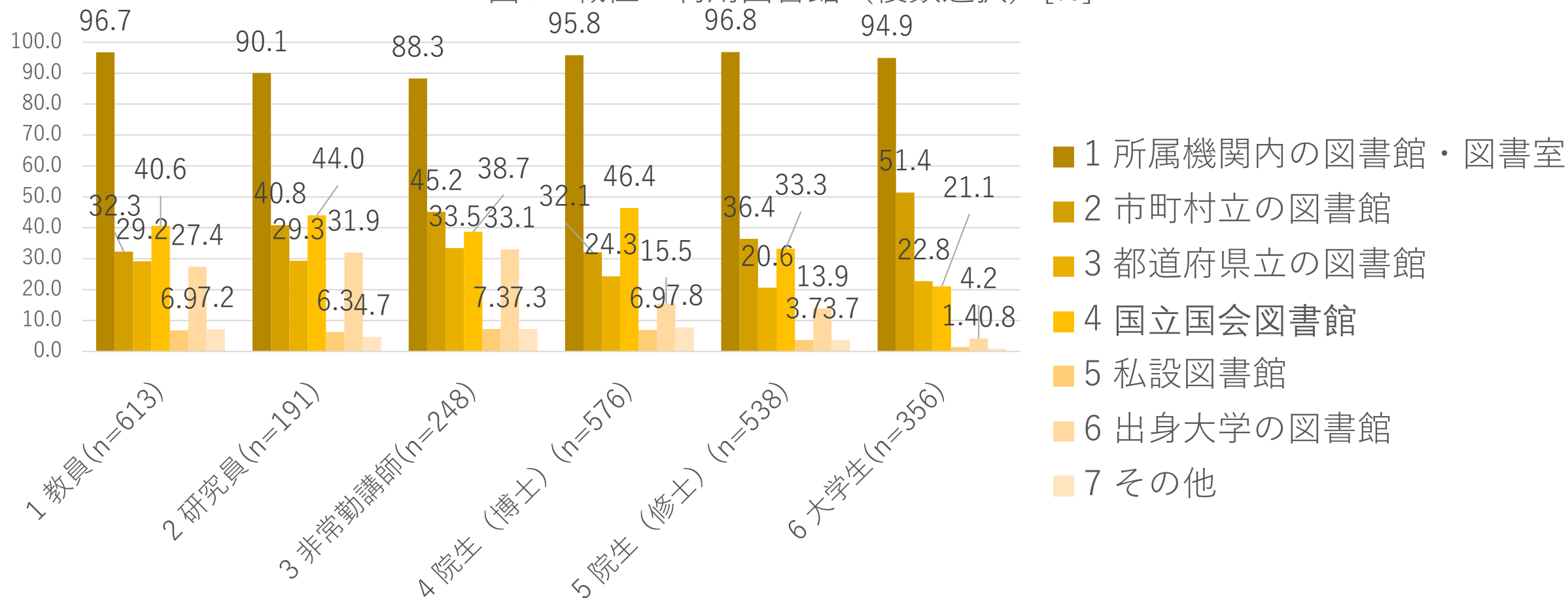


3 研究者・学生による通常時の図書館利用

- ただし、利用する図書館の種別は**職位**により異なる（図4）
 - 教員・研究員・博士課程院生：1) 所属機関内、2) 国会図書館
 - 非常勤講師・修士課程院生・学部学生：1) 所属機関内、2) 市町村立
- **所属大学以外の大学図書館**も幅広く利用されている
 - 教員・研究員・非常勤講師の約3割は「出身大学の図書館（卒業生としての利用等）」も利用
 - 「その他」では、他大学の図書館（67件）や非常勤先の図書館（14件）が回答された
 - 居住地近隣の大学図書館（学外者としての利用）や、大学間の提携や協定（山手線コンソーシアムなど）に基づく利用

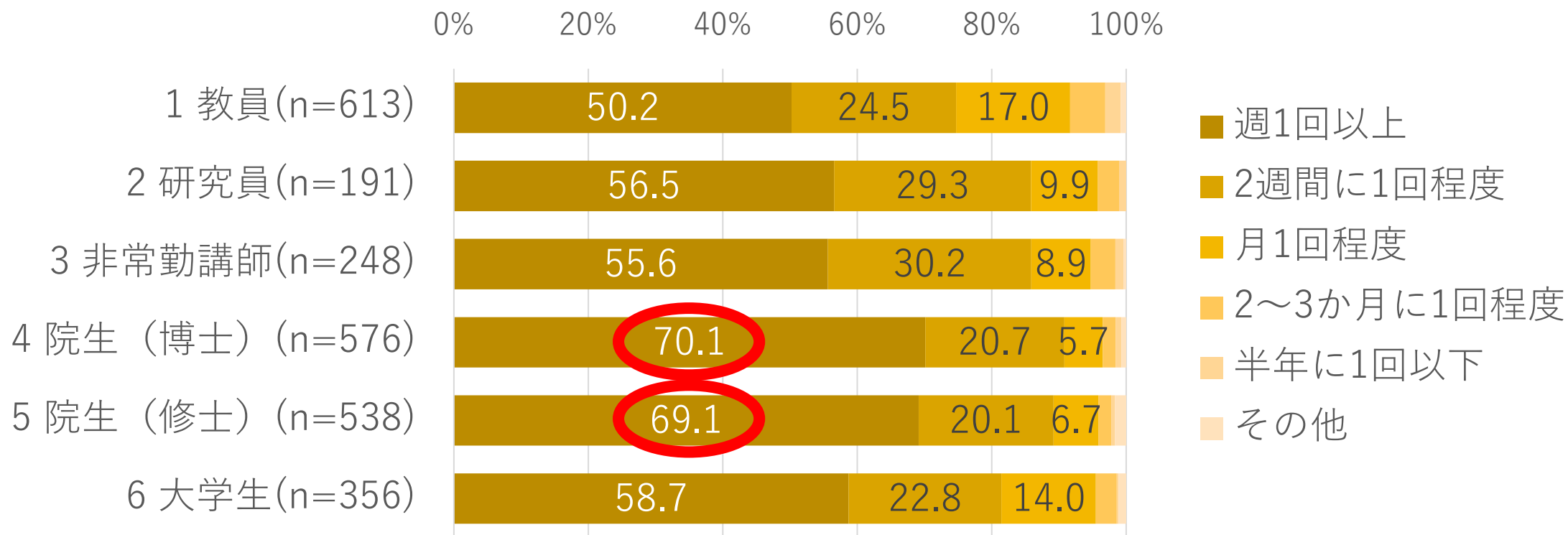
3 研究者・学生による通常時の図書館利用

図4 職位×利用図書館（複数選択） [%]



3 研究者・学生による通常時の図書館利用

図5 職位×研究のための図書館利用頻度[%]

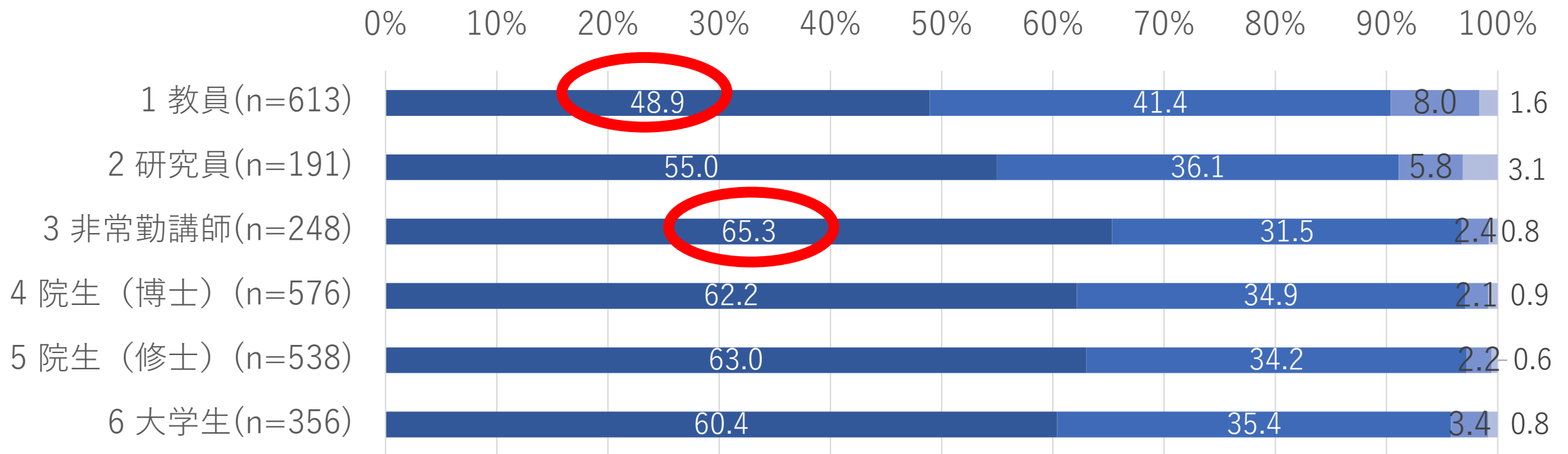


4 休館による研究者・学生への影響

4.1 休館・サービス縮小による影響

4.1 休館・サービス縮小による影響

図6 職位×休館による研究への影響[%]



職位により影響を受ける程度は異なる

- 1 非常に重大な影響がある
- 2 ある程度影響がある
- 3 あまり影響がない
- 4 まったく影響がない

4.1 休館・サービス縮小による影響



- 自由記述回答（FA意見感想）から：

• 「正式な所属のない非常勤や嘱託の研究者が資料によりアクセスできる環境が整えばと思います。」（非常勤講師・嘱託研究員（無給））

• 「**正規雇用であれば自宅や学外から大学の図書館のデータベースにアクセスできるが、非正規雇用にはそのアクセス権はそもそもない。**これまでは図書館に行き、pcからアクセスすることができたが、大学の構内には立ち入りも出来なくなっており、**非正規ではほとんど研究は出来ない環境**にある。」（研究員）

4.1 休館・サービス縮小による影響



- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「〔中略〕非常勤講師のため、大学からの研究補助費がいっさいなく、これまでも資料の購入を要する時は自腹だったが、図書館はその費用軽減に大いに貢献していた。しかし今や図書館が利用出来ず、収入の先行きが見えない今は、資料の購入は今まで以上に控えなければならない状態である。」（非常勤講師）

- 「所属先があるぶん私はまだ恵まれていますが、**非常勤講師や大学院生の方にとっては死活問題**だと思います。」（教員）

4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「人文社会科学系全般にいえることかもしれませんが、歴史系にとって、図書館は研究・教育にとって不可欠なインフラです。**院生・OD・PDのときに図書館が閉館されたら何もできなかったでしょう。**図書館員の負担・健康上の安全に配慮したうえで、研究・教育機関所属の教員は図書館と連携して、とくにキャリア形成が必要な世代への支援体制をつくる必要があると思います。」（教員）



4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「現状で自分自身に大きな問題はありませんが、このアンケートに回答しているうちに、**もし院生の時にこの状態だったら、M論やD論を書けていなかったら**うなあと、改めて事の重大さに気づきました。その一方、**日本にいる若手でも、デジタル化の進んだ欧米言語圏の資料で研究が完結する人**（≡留学歴を持つある程度恵まれた階層にいる人、また英語での論文執筆が必須といった最先端の研究を進めている人）であれば、大きな苦勞なく従来の研究を進められるので、これを機に、**国内の若手研究者の間に格差が生じる**のではないかと懸念しています。」（教員）

4.1 休館・サービス縮小による影響

- 職位による影響の違い：

1. キャリア途上の研究者のヴァルネラビリティ（脆弱性）

- 不安定な立場にある研究者（キャリア途上の大学院生・非常勤講師・非正規雇用など）ほど重大な影響を受けた
- 一般の労働市場（非正規雇用ほど失業・困窮のリスクが高い）と共通する傾向
- とはいえこれは大学図書館の問題ではなく、アカデミアの構造の問題

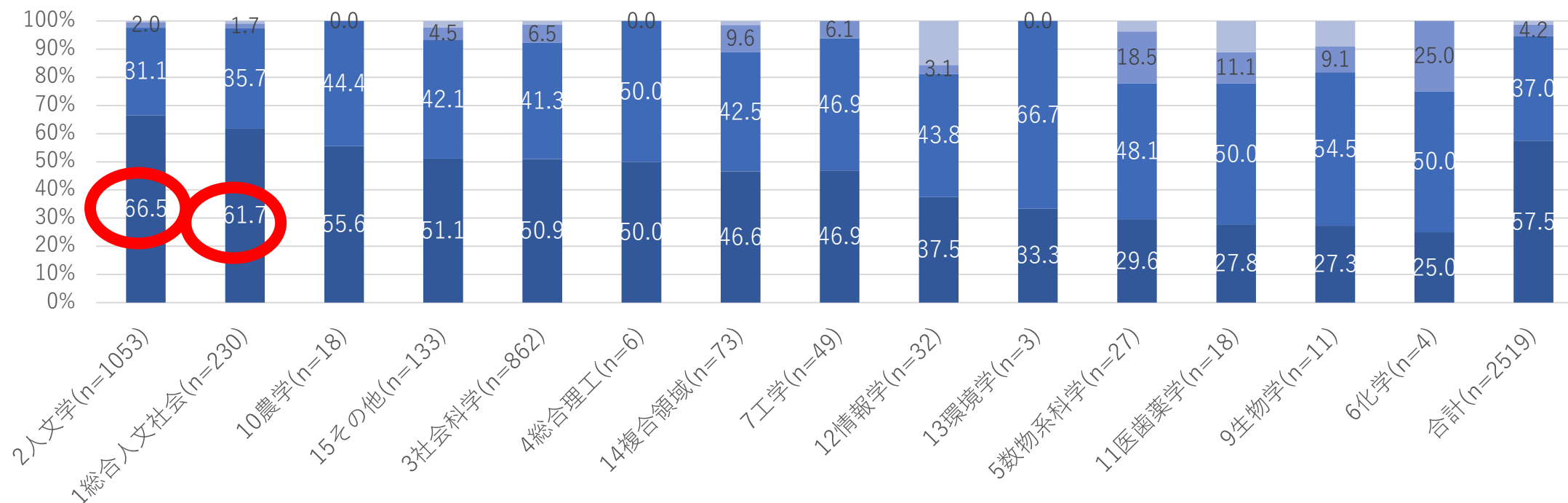
2. コロナ禍の大学図書館における「ニーズとアクセシビリティのジレンマ」

- 脆弱・不安定な立場にある者ほど研究資源に制約があるため、大学図書館へのニーズが高いが、非常時のアクセスは制限される傾向

4.1 休館・サービス縮小による影響

特に**人文系専攻**で影響が大きかった

図7 専攻分野×休館による研究への影響[%]



■ 1 非常に重大な影響がある ■ 2 ある程度影響がある ■ 3 あまり影響がない ■ 4 まったく影響がない

4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「人文学系の資料は特にデジタル化が遅れており、**図書館が開いていなければできないことが多い**です。また、県外や海外への移動も制限されており、一次史料の確認もできません。」（非常勤講師・博士課程院生（D3）・公務員）

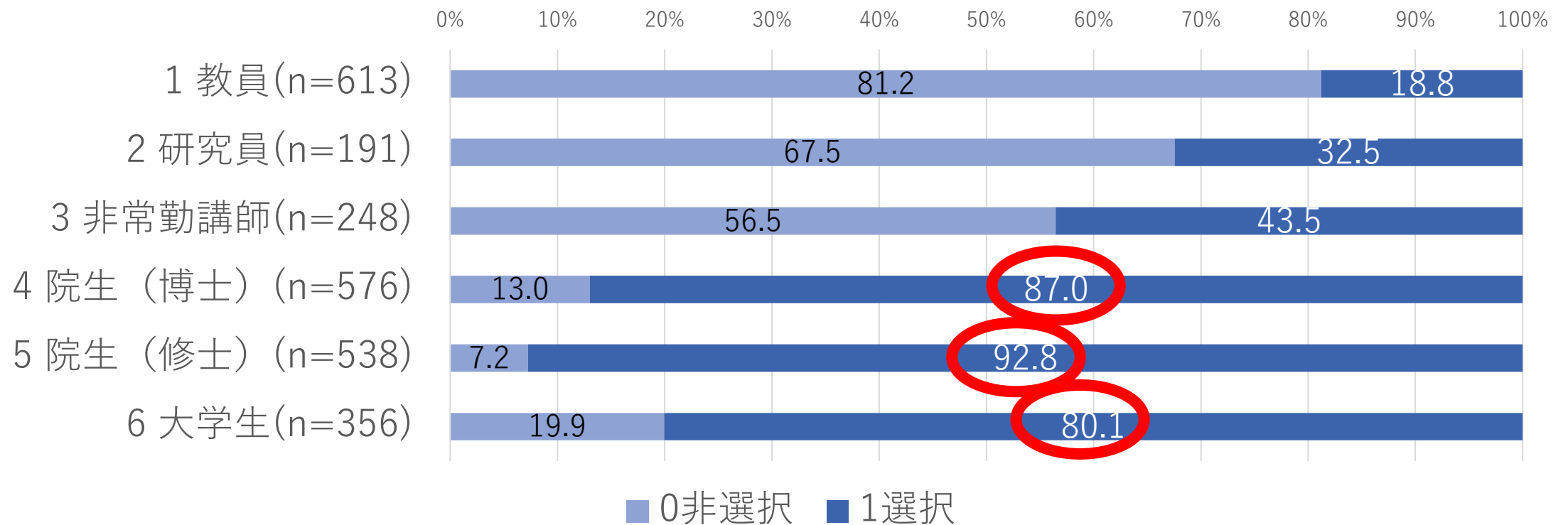
- 「〔中略〕私は専門が言語学であるため、国語辞書や事典などそもそも**禁帯出の文献を参照したいことも多い**ので、貸出しか許可されないとなると辞書の参照ができず研究が進みません。」（博士課程院生（D3））



4.1 休館・サービス縮小による影響

* 「卒業論文・修士論文・博士論文等に必要な文献の収集ができない」

図8 職位×具体的影響1（卒論・修論・博論等*） [%]



4.1 休館・サービス縮小による影響



- 自由記述回答（FA意見感想）から：

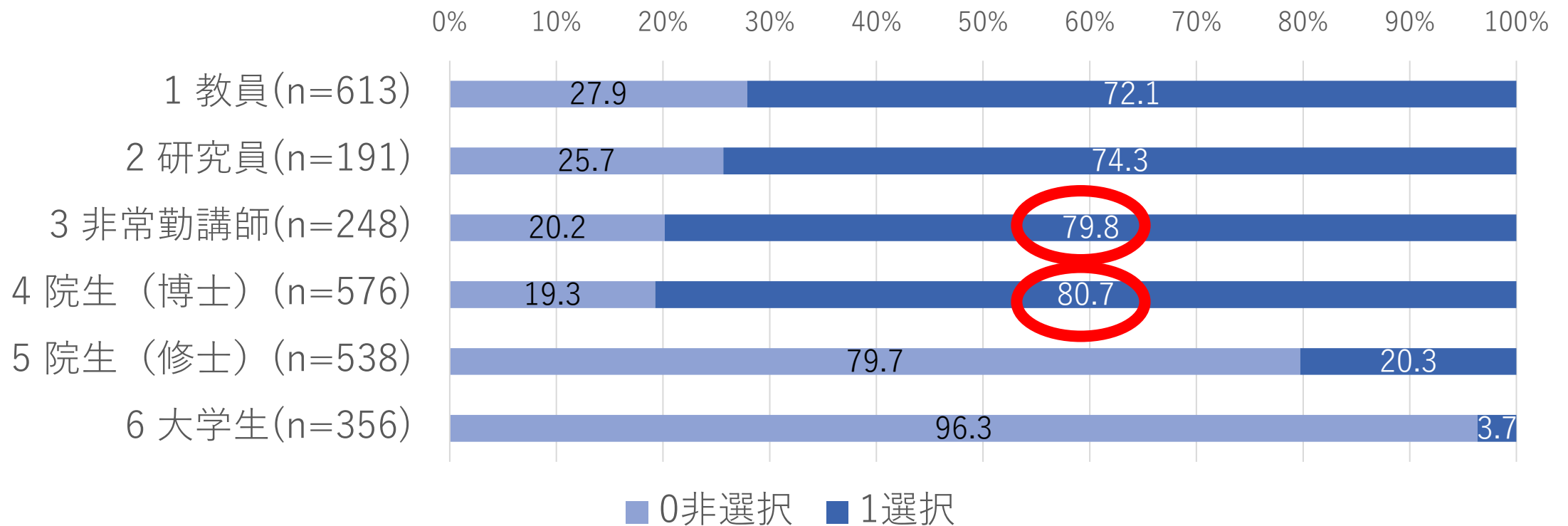
• 「[中略] 博士論文には提出期限があるので、閉館（業務の完全な停止）が、宣言が出されてからの一か月などでなく**数か月や学期単位など長期化すると、執筆者の人生に影響**が出そうです。」（非常勤講師・博士課程院生（D3））

• 「M2でこれからいよいよ調査，と思い立っていたので，現在どうしようか分からないし見通しも立たないしで，本当の本当に困っています。ですからこうしたアンケートをして下さり本当に感謝します。私たちの声が少しでも伝わるととてもとても助かります。」（修士課程院生（M2））

4.1 休館・サービス縮小による影響

* 「学術誌への投稿論文に必要な文献の収集ができない」

図9 職位×具体的影響3（投稿論文*） [%]



4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「**原本やマイクロフィルム資料の閲覧**に依存している研究もあり、閉館によりそれが完全にできなくなりました。それが一番困っています。」（博士課程院生（D4））

- 「建築史を専攻しており、**とにかく文献・資料頼み**の研究なので、困っています。」（修士課程院生（M2））

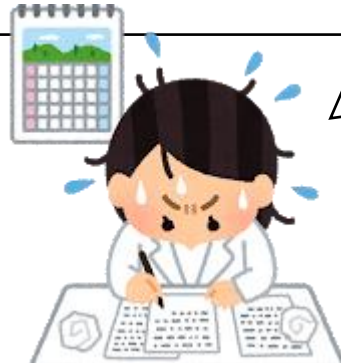
- 「**古書であっても手に入らない書籍や、大部の辞書や統計資料等**を頻繁に繰り返し使わざるを得ない場合もあり、時間や人数を制限しても、一定時間滞在しての利用を可能にして欲しい。」（教員）



4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

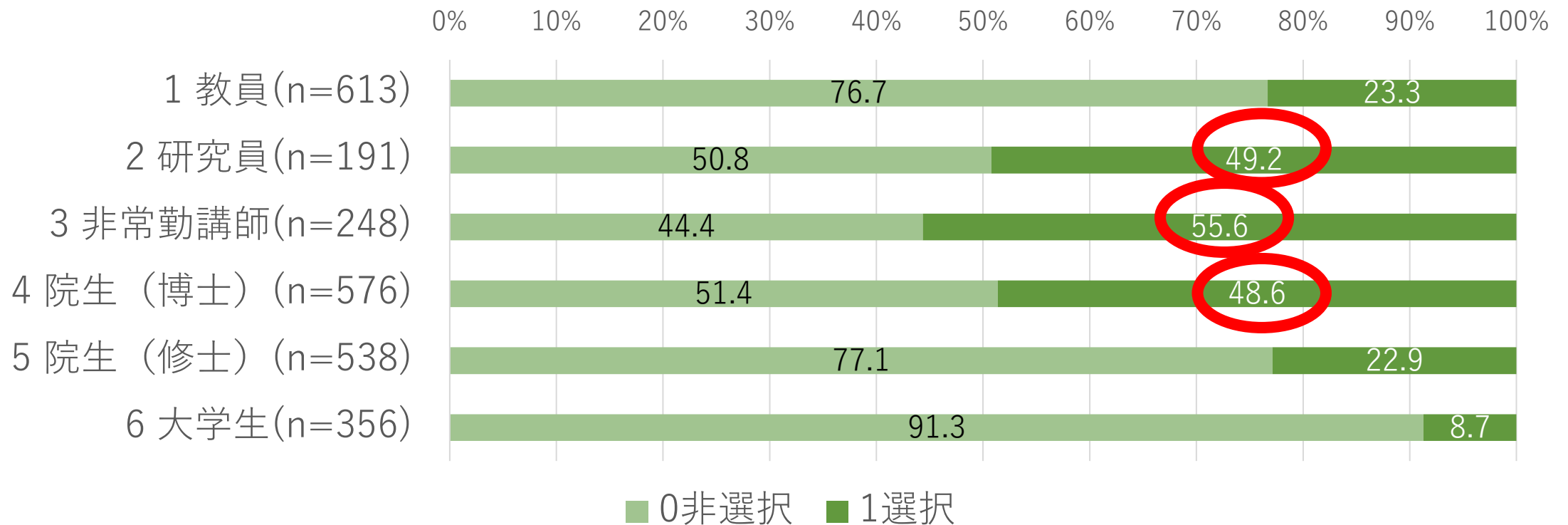
- 「図書館について、普段はそれほど困らないのですが、書籍や文献は「この時必要」、「今あれば」という時があります。自分の大学図書館に雑誌があるのに（しかも同じ敷地に）一切借りれないというのは不便だと思いました（**投稿論文、学会のアブストラクト、学振の申請書、博士論文執筆の準備など、やることが多いのに……**）。**生協で購入しようにも公費以外は現在受け付けていない**状況で、少し困っております。」（博士課程院生）



4.1 休館・サービス縮小による影響

*「研究者としてのキャリア形成が困難になる」

図11 職位×長期的影響6（キャリア形成困難*）[%]



4.1 休館・サービス縮小による影響

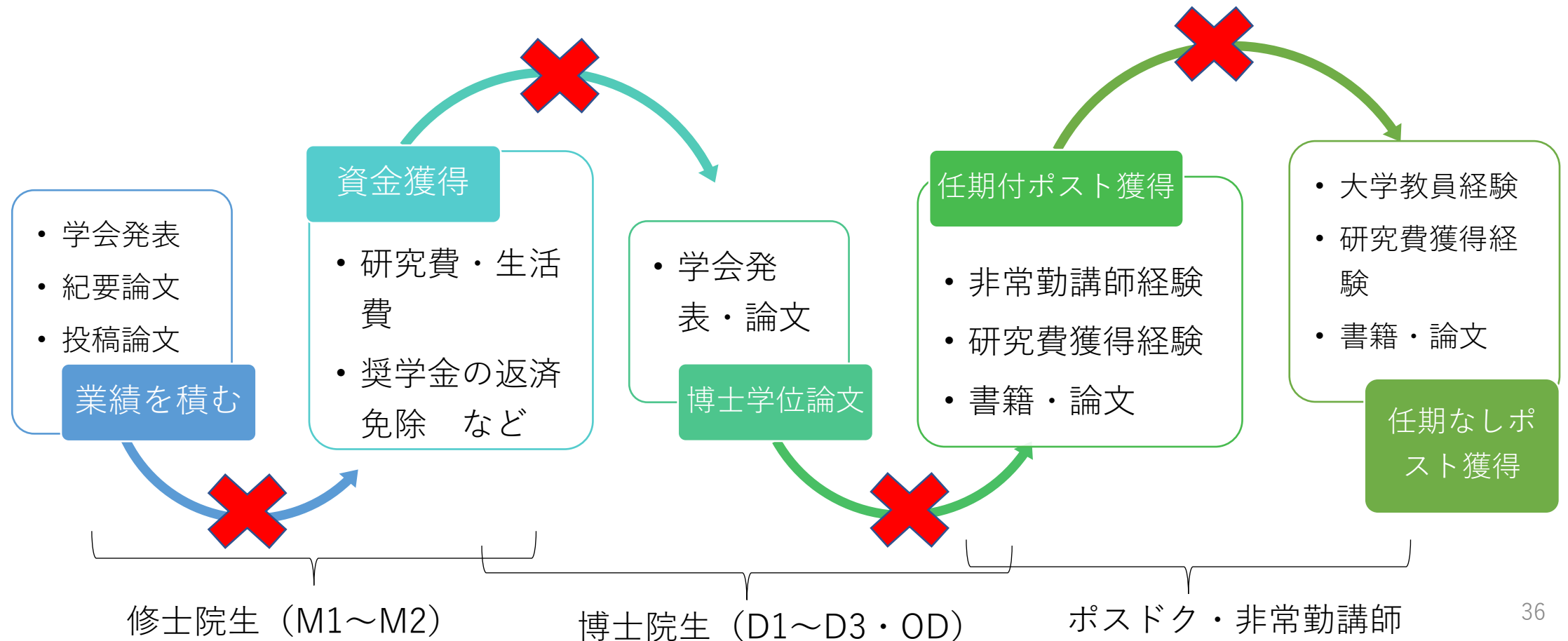
- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「**博士号取得のためには査読誌への論文投稿が必要**ですが、**〆切が迫る中、必要な文献が揃わないことから執筆できなくなってしまう、困っています。**
- **査読誌への掲載数が大学院の規定を満たさなければ博士号が取得できず、就業年数が伸びることになってしまいます。**
- そうすれば**学費をよけいに負担**しなければならないですし、今後のキャリアプランも狂ってしまいます。
- 人文系は特に文献なしには研究が進まないので長期間の図書館等の休館は重大問題です。」（博士課程院生（D2））



4.1 休館・サービス縮小による影響

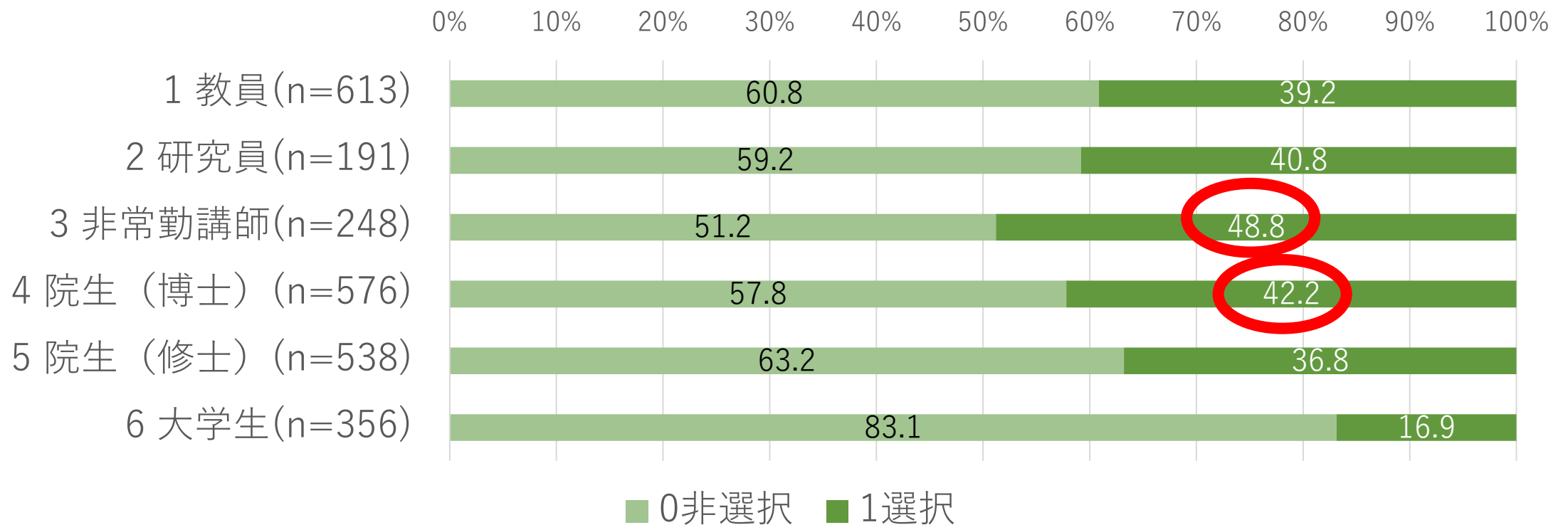
- ・ 休館・サービス縮小の影響は「連鎖的・蓄積的・長期的」なもの



4.1 休館・サービス縮小による影響

*「研究全般の継続が難しくなる」

図12 職位×長期的影響7（研究継続困難*） [%]



4.1 休館・サービス縮小による影響

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

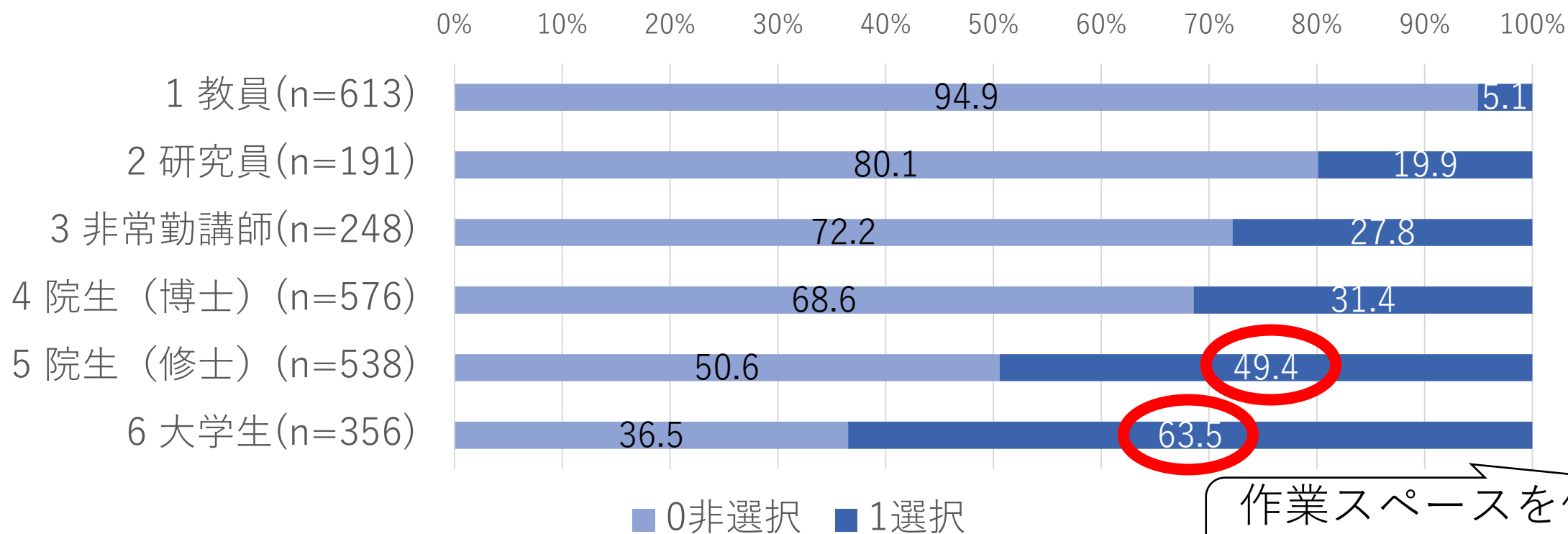
- 「**〔中略〕** 大学院生は、その研究の進捗がアカデミアにおける**キャリア形成と密接に関わらざるを得ない状況**で、将来への強い不安を抱えながら様々なフェローシップや助成金に「自力で」応募して糊口をしのがざるを得ません。こうしたなかで図書館という場が使用不能になり、**研究がストップしてしまうとただでさえ見通しが悪いのに**いっそう研究しながら普通の生活をする（良い生活ではない、ごく普通の生活）ということに希望が持てなくなります。」（博士課程院生（D1））



4.1 休館・サービス縮小による影響

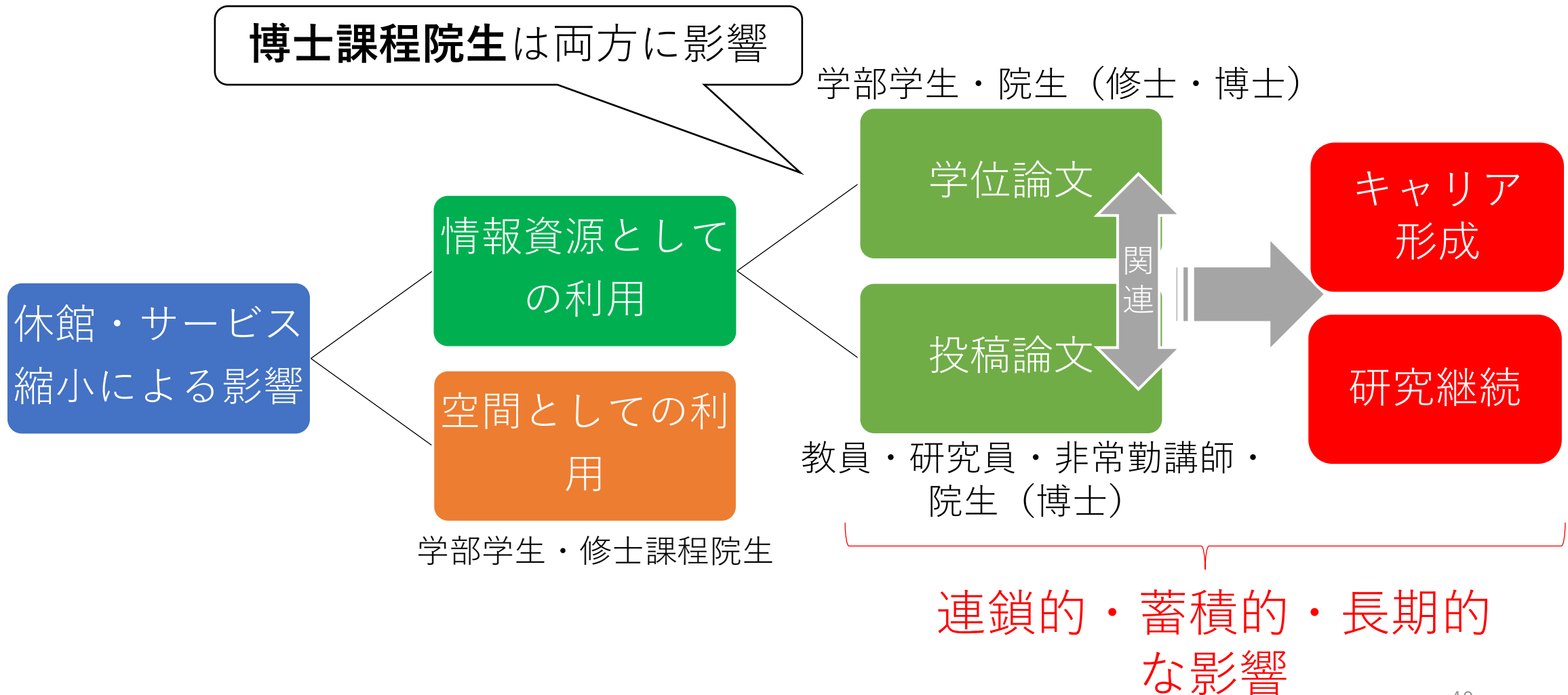
* 「図書館を自習スペースとして利用できない」

図10 職位×具体的影響⁸（自習スペース*） [%]



作業スペースを他にもたない層

4.1 休館・サービス縮小による影響



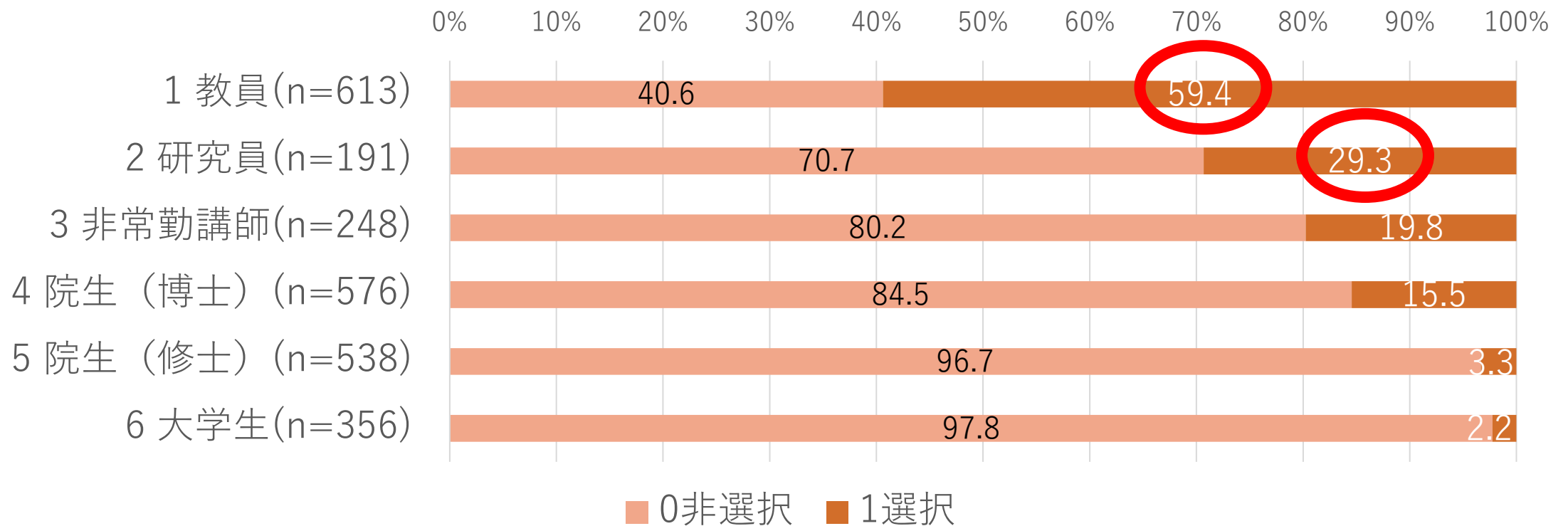
4 休館による研究者・学生への影響

4.2 利用された代替手段

4.2 利用された代替手段

*「公費（科研費、研究費、経費等）で必要な文献を購入している」

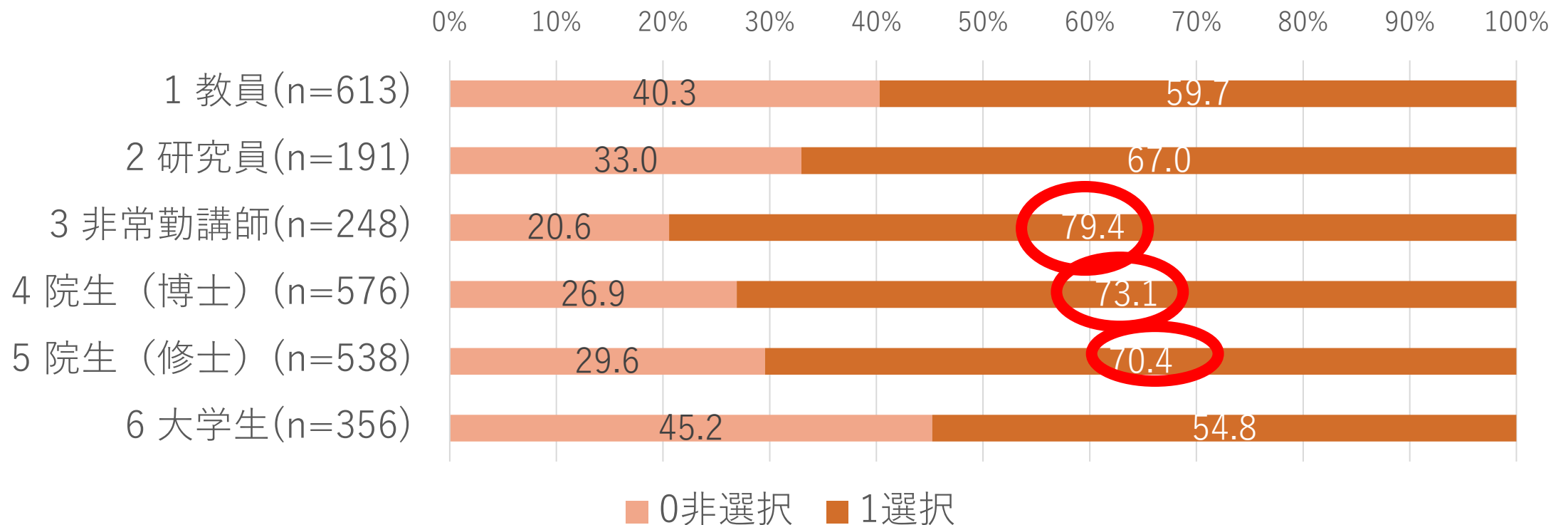
図13 職位×代替手段1（公費で購入*） [%]



4.2 利用された代替手段

*「私費で必要な文献を購入している」

図14 職位×代替手段2（私費で購入*） [%]



4.2 利用された代替手段



- 自由記述回答（FA意見感想）から：

• 「〔中略〕紀要や雑誌のバックナンバーは流通しておらず、私費購入もできないため図書館頼りです。また、**緊急事態宣言下ではアルバイトもTA業務もなく、収入減で私費購入はなかなか厳しいものがあります。**研究が続けられるよう、対策がとられることを切に願っております。」（修士課程院生（M2））

• 「現行の大学図書館が公開する電子書籍だけではとても足りない状態です。**今はバイトも止まり学術書を購入する余裕もないので** 研究のリソースがなくなっており、まともに研究ができるか極めて不安です。」（修士課程院生（M1））

4.2 利用された代替手段



- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「大学でリサーチ・アシスタントやティーチング・アシスタントのアルバイトを複数掛け持ちして、研究費、学費、生活費を賄ってありますが、**自粛要請により大学での勤務が困難となり、ほとんどの収入が途絶えております。**
- この状況で、図書館の利用不可による書籍の自費購入は非常に厳しいです。**研究助成金に応募するにも、準備のために書籍や論文が相当数必要です。**
- 同様の状況にある学生は多いと思います。大学院への進学は自分で選択したことだからと、声を上げることのできない人も多いのではないのでしょうか。」（博士課程院生（D2））

4.2 利用された代替手段

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

- 「**大学院生は収入も減り本を買うお金もないです。研究費を得ている人は一握りです。**
- 研究業績が本人の家計環境に比例するのはすごく悲しいです。」（博士課程院生（D3））

- 「無給の研究員なので、もともとすべて私費です。前期は非常勤ありません。生協で買えなくなり、本代に困っています。」（研究員・非常勤講師）

4.2 利用された代替手段

- 自由記述回答（FA意見感想）から：

研究費があっても購入しづらいもの、そもそも購入できないものも…

- 「〔中略〕幸い、主要文献は公的な研究費で購入していますが、**関連することが予想されるものの内容が確認できない高額な学術書**については購入を躊躇ってしまいます（価格に加えて、居住スペースの問題もあり）。」（研究員・博士課程院生（D3））

- 「急ぎで必要なもので入手可能なものは私費で購入もしていますが、**昔のものになればなるほど、稀少であったり高価であったり、一回の学生には入手困難なものが多いです。せめてデジタル資料を館外でも閲覧できるように、博士論文を取り寄せて読めるように整えていただきたいです。**どうかよろしくお願いします。」（博士課程院生（D3））

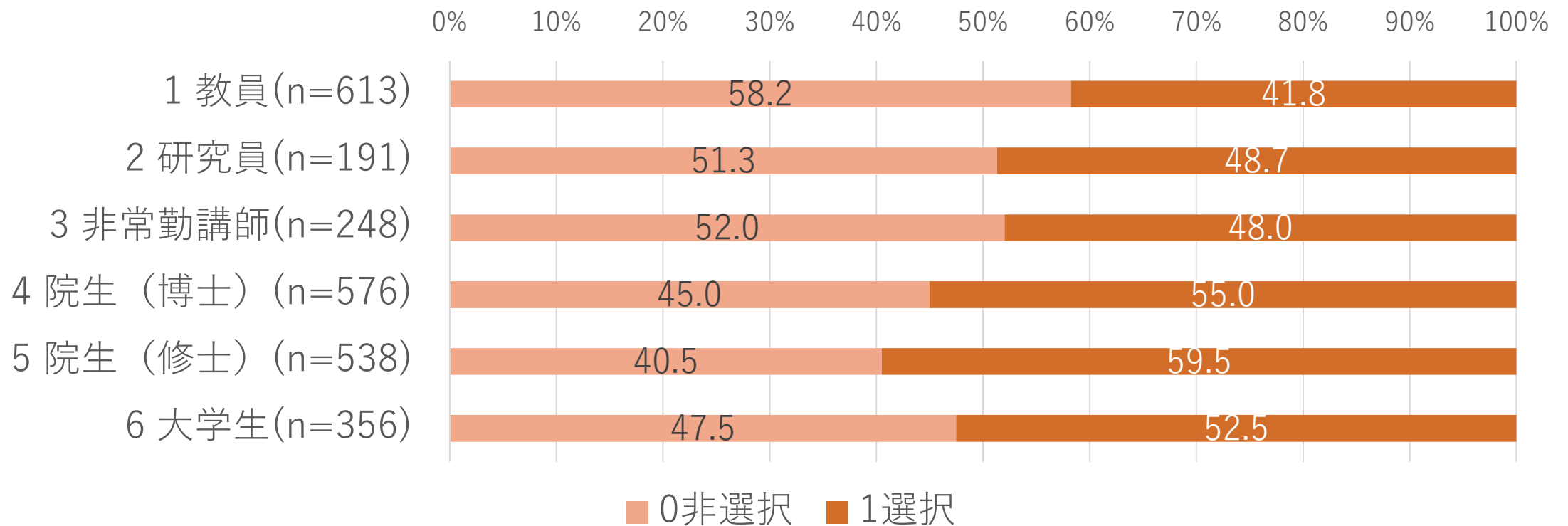
4.2 利用された代替手段

- コロナ禍の大学図書館における「**オルタナティブとリソースの制限**」
 - キャリア途上の研究者・学生ほど、大学図書館が利用できないことへの**オルタナティブ（代替手段）が私費購入**に限られていた
 - コロナ禍に伴う**収入減**により、私費購入も制限された
 - 教員：収入に影響がなく、**公費購入＋私費購入**が可能
 - 大学院生・研究員（無給）など：**私費購入のみ**で、収入にも影響を受けた

4.2 利用された代替手段

*** 「オンラインで入手できる文献のみで研究している」**

職位×代替手段4（オンライン入手のみ*） [%]



4.2 利用された代替手段

- 代替手段（その他）の自由記述回答より：

• 「どうしても必要な書籍で購入できるものは通信販売で入手していますが、**デジタル化・オンライン化されていない古い資料（特に近代日本の各種新聞・雑誌をはじめとする文献）や揃いの事典類・目録類**は、経済的にも置き場所のうえでも購入することができず、大変困っています。」（教員）

• 「**所属機関の図書館契約データベースの学外アクセスは非常勤講師の利用を禁止しているため、利用できない。**」（非常勤講師）

• 「**専任教員にお願いしてオンラインデータベースや電子ジャーナル等を使わせてもらっている。**」（非常勤講師）

↑ ここにも「ニーズとアクセシビリティのジレンマ」

4 休館による研究者・学生への影響

4.3 望まれた支援

★グループワーク★します

- お題：「コロナ対応として、貴館ではどのようなサービス変更を行いましたか？ それに対しては、どのような利用者からのニーズやリアクションがありましたか？」
- 5名ずつのブレイクアウトセッション（7分間程度）
- 受講番号が一番小さい方、すみませんが司会をお願いします
- 受講番号が一番大きい方、すみませんがグループで出た内容を要約して発表をお願いします

4.3 望まれた支援

図書館スタッフの安全を優先すべきという意見も多数

- 自由記述回答（FA意見感想）より：

- 「論文を書いて研究を続けていけるのか、正直なところでは不安です。できることなら、いち早く中身を確認した上で文献にあたれる状況になって欲しいと願っておりますが、**人がいてこそ成り立つのが図書館だろう**と思います。**場合によっては職員や関係者を危険に晒すことになります**から、どこまで求めて良いのだろうかとも考えてしまいます。」（修士課程院生）

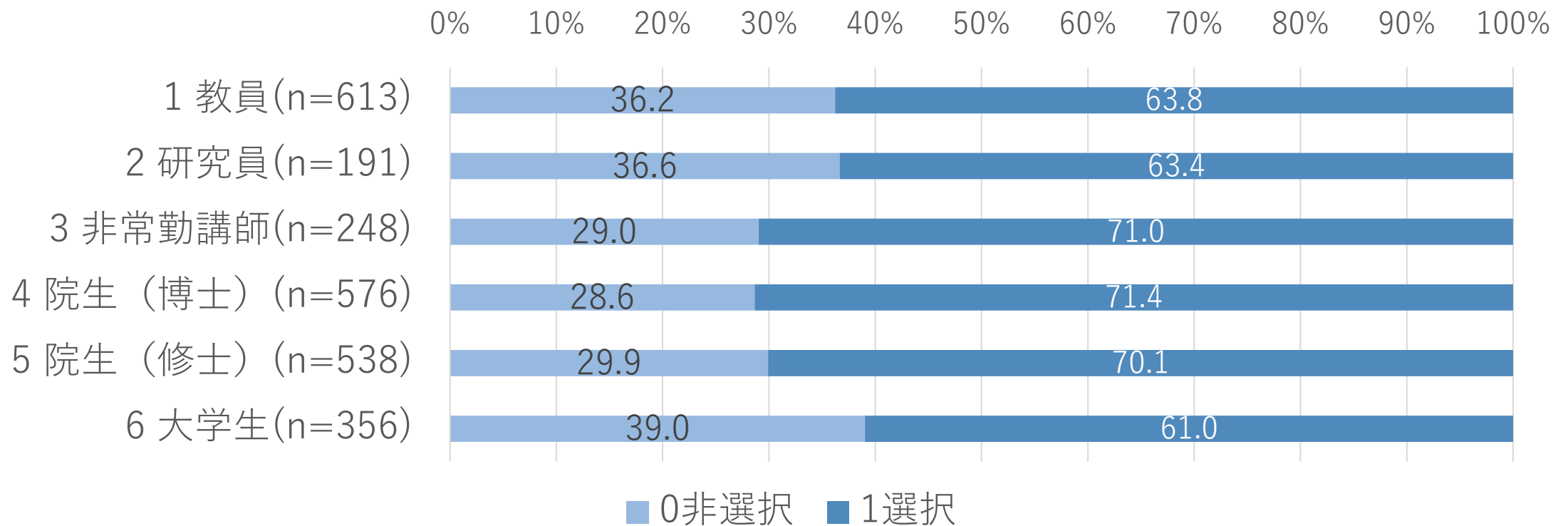
- 「研究者の立場としては図書館が利用できない痛手はもちろん大きい。とはいえ**図書館職員の命を守ることをまずは優先**し、その中で可能なサービスを検討してもらえたらいい。」（教員）

- 「図書館に勤める非正規の職員が多いので、この方たちのことが心配です。」（所属・職位なし）

4.3 望まれた支援

*** 「研究目的の文献について、館内閲覧を伴わない貸出しサービスの実施
（例：事前予約した文献の受取のみ等）」**

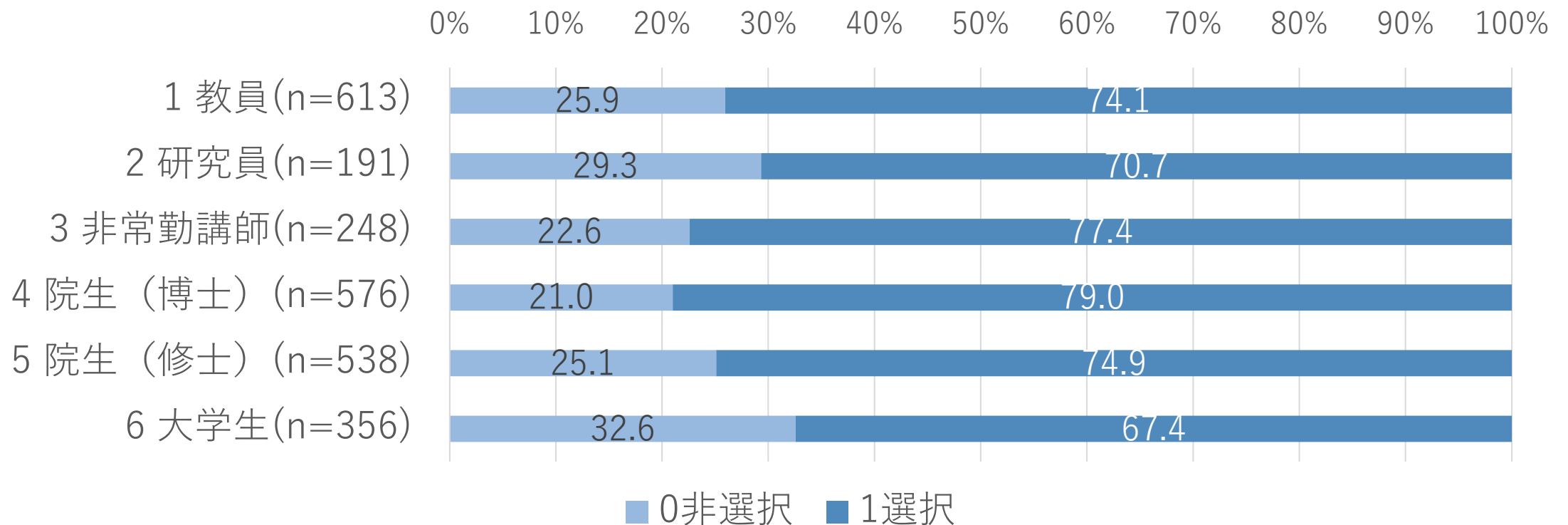
図16 職位×望む支援2（館内閲覧なしの貸出*） [%]



4.3 望まれた支援

* 「研究目的の文献について、来館を伴わない貸出しサービスの実施
(例：文献の郵送や一部電子化等)」

図17 職位×望む支援3（来館なしの貸出*） [%]



4.3 望まれた支援

- 望む支援（その他）の自由記述回答より：

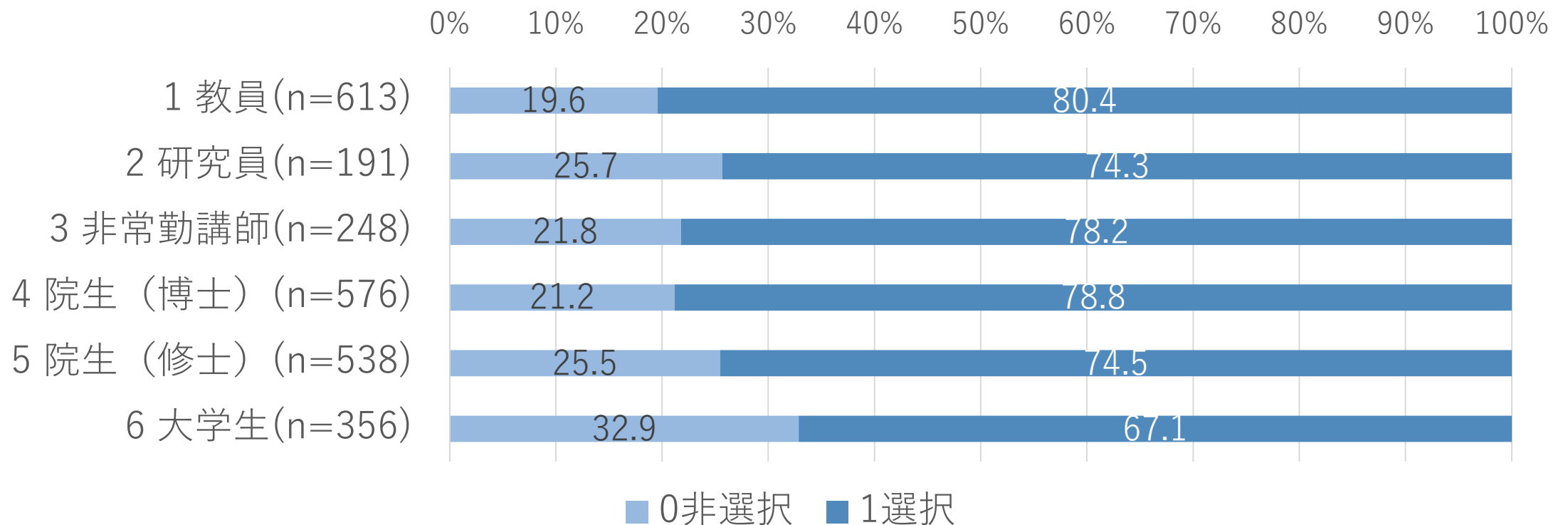
• 「3.に関して。所属する大学図書館では予約による貸出のみしていますが、**遠方の大学に通っているため、直接赴いての受取ができません。**実家暮らしは皆同様なのではないでしょうか。」（博士課程院生（D3））

• 「EU圏内から戻りましたが、大学図書館の貸し出し、返却サービスは継続していました。**オンライン予約し、図書館内のボックスに本が届く、返却も返却ボックスへ、という対人によらないシステム**が整っているためです。図書館員、利用者の感染リスクを考えると、そのようなシステムのない国内の図書館でサービスの再開を求めることに疑問を感じます。」（博士課程院生（D3））

4.3 望まれた支援

* 「デジタル化資料の公開範囲拡大（例：国立国会図書館内限定送信の資料を館外利用可能にする等）」

図18 職位×望む支援4（デジタル化資料の公開範囲拡大*） [%]



4.3 望まれた支援

PDFデータの提供



- 望む支援（その他）の自由記述回答より：

• 「**文献のPDFコピー提供サービス**の充実。このサービスを図書館間でのサービスに拡大してほしい。」（教員）

• 「例外的に学術情報流通のために、学術情報の著作権を一部制限して、個人間での複写を限定的に認めていただきたい。また**著作物のスキャンデータの電子送信**を限定的に認めていただきたい。」（研究員）

• 「申込みのあった閲覧箇所を**電子複写しメール添付で送信**する制度」（公務員）

4.3 望まれた支援



- 望む支援（その他）の自由記述回答より：

データベースの拡充

- 「データベースの**アクセス数の拡張**（を交渉すること）」（教員）

- 「電子ジャーナルの契約拡大、VPNの最大同時接続数拡大、**無給研究員への図書館ID付与**」（教員・研究員・非常勤講師）

- 「メール等の予約申し込みによる複写サービス・**学内でしかログインできないオンラインサービスを自宅でも使えるようにしてほしい**」（非常勤講師）

4.3 望まれた支援



リモート接続の拡大

- 望む支援（その他）の自由記述回答より：

• 「4に関連しますが、**オンラインデータベースの学外リモート利用の拡大**があると便利です。うちの大学にはプロキシを使って学外からオンラインデータベースを利用できるシステムがあるのですが、データベース次第であり、**学内からしか使えない契約のものが使えず不便**です。」（博士課程院生（D5））

• 「**図書館でのみ利用可能なデータベース（新聞の過去記事検索・収集など）**を、図書館外・学外からでも利用できるようにしてほしい」（研究員）

• 「**国会図書館のみならず、学内でしか使えない論文検索システム**にもアクセスできるようにしてほしい。」（博士課程院生（D6）・助手）

4.3 望まれた支援

資料や書籍のデジタル
化推進

- 望む支援（その他）の自由記述回答より：

- 「過去の新聞・雑誌資料など、営利や著作権に関わらない電子アーカイブ化の拡大。」（研究員・博士課程院生）

- 「既存資料の書籍化 研究上の分析対象となる資料(ex.古い会議録や、各機関が過去に発行した雑誌など)のオンライン公開の推進」（博士課程院生（D2））

- 「米国の大学図書館は専門書でもデジタル版を揃えているので、オンラインでかなりの範囲を賄うことができます。日本の専門書はそもそもデジタル版が普及していないので、そこから変え、和書でもオンラインで読める環境（出版社の協力）が整備されればと考えています。」（教員）

4.3 望まれた支援



所属や職位によるアクセシビリティの違いという課題

- 自由記述回答（FA意見感想）より：

- 「大学によってオンラインジャーナルの契約範囲がかなり異なり、所属大学があって学位取得を目指している人が学位取得のための大学での学籍を失った場合に、かなりの大きなダメージを受けています。」
（教員）

- 「とある大学図書館に、**通常は非常勤講師には解放されていないデータベースへの学外アクセスを、現状だけでも解放していただけないか直接にお願いしましたが、ほとんど時間をおかず担当者から不可能との返事**がありました。機関内での検討すらしていないと思います。アンケート結果をもとに、こうした対応が好転することを願います。」
（非常勤講師）

4.3 望まれた支援

- コロナ禍の大学図書館における「**フィジカルとデジタルのニーズ**」

1. **フィジカル：**

- 非滞在型・非来館型の図書資料利用

2. **デジタル：**

- PDFデータによる提供
- データベースの拡充
- リモート接続の拡大
- 書籍や資料のデジタル化推進
- 所属や職位によるアクセシビリティの違いという課題

4 休館による研究者・学生への影響

4.4 大学図書館による対応

4.4 大学図書館による対応

- 郵送による資料貸し出し・複写物提供
 - 早稲田大学図書館（鈴木 2021）
 - 東北大学附属図書館（永井・堀野 2021, 三角 2021）
 - その他、多数の大学図書館で行われた（前田 2020b）
- VPNサービスの拡大（従来は教職員のみ→学生にも拡大）
 - 東北大学附属図書館（小陳 2021）

4.4 大学図書館による対応

- 学外者の利用
 - 東京大学附属総合図書館
 - 事前予約制・資料利用目的のみ・滞在時間制限 <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/covid-19>
 - 京都大学図書館機構
 - 卒業生：出納が必要な場合は事前予約
 - その他一般：「事前に、ご所属の大学・研究機関の図書館や、最寄りの公共図書館を通じて、**参考調査と紹介状の発行**を依頼してください。資料の所蔵が確認されましたら、紹介状をご持参の上、ご来館ください。」
 - <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1389088#visitor>

4.4 大学図書館による対応

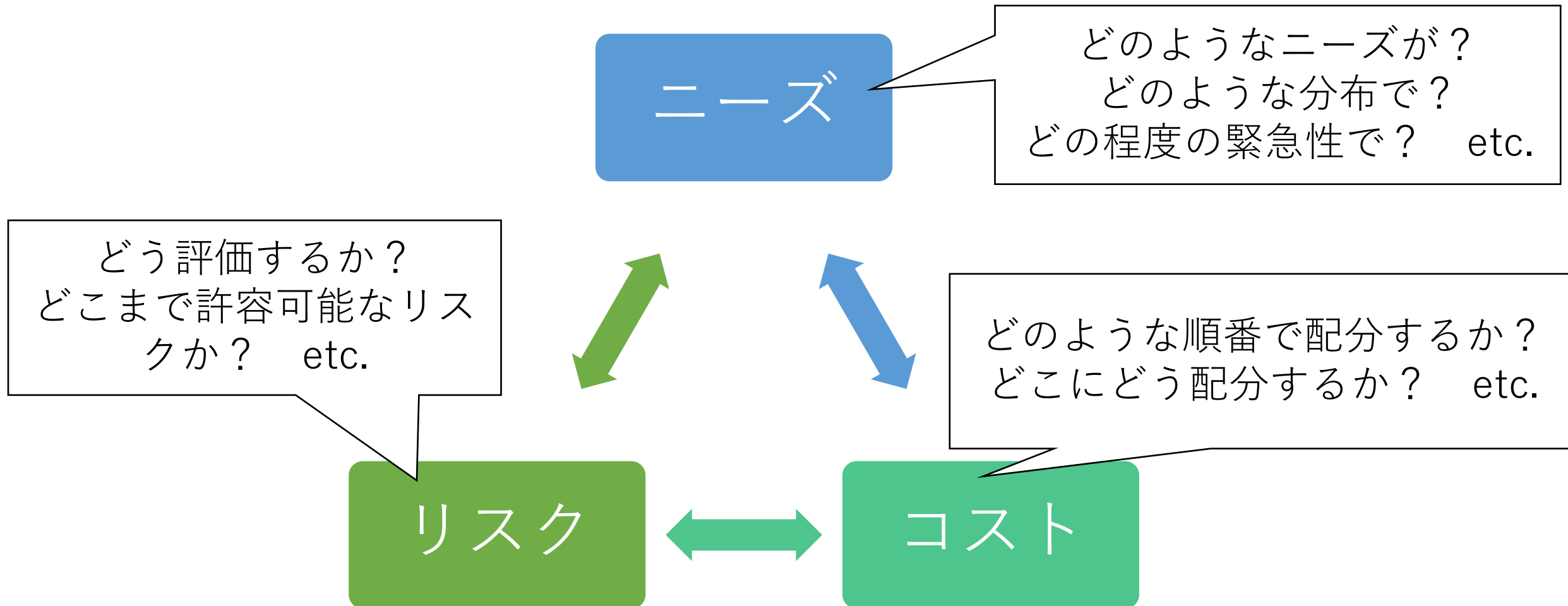
- 学外者の利用

- 大阪大学附属図書館

- 「卒業生特別」の利用再開（2020/10～）：「このたび、「**卒業生特別**」区分の皆様については、**利用休止による影響が特に大きい**ため、下記のとおり利用を再開することとなりました。」 https://www.library.osaka-u.ac.jp/news/20200925_common/
- 学外者の貴重図書利用（2020/09～）：「現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外の皆様へのサービスを休止していますが、**総合図書館が所蔵する貴重図書の利用については、代替物がないことが多い**ため、問い合わせを受け付けます。」 https://www.library.osaka-u.ac.jp/news/20200903_sougou/

大阪大学附属図書館は、「コロナ禍を踏まえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」というテーマで職員研修を実施（2021年2月）。研修資料の公開あり <https://www.library.osaka-u.ac.jp/kensyu/>

4.4 大学図書館による対応



5 おわりに

5 おわりに

- コロナ禍の大学図書館をめぐる研究者・学生の経験とニーズ
 1. キャリア途上の研究者のヴァルネラビリティ（脆弱性）
 2. ニーズとアクセシビリティのジレンマ
 3. 休館・サービス縮小の影響は「連鎖的・蓄積的・長期的」
 4. オルタナティブとリソースの制限
 5. フィジカルとデジタルのニーズ
- リスク・コスト・ニーズをどう把握し、三者のバランスをどうとるか

引用文献

- 川崎安子, 2021, 「眠らない大学図書館：図書館の門が閉ざされた日」『大学出版』No. 125, pp. 2-4.
- 小陳左和子, 2021, 「大学図書館が動き続けるために：震災、台風、感染症に遭遇した東北大学附属図書館から」『大学図書館研究』第117号, pp. 1-15.
- 前田麦穂, 2020a, 「大学図書館等の休館が教育・研究に与えた影響：『図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート』最終集計結果から（特集 新型コロナ感染への大学の対応）」『大学マネジメント』第16巻第2号, pp. 38 -41.
- 前田麦穂, 2020b, 「新型コロナウイルスと『図書館休館対策プロジェクト』：緊急アンケート，要望書とその成果（小特集：新型コロナウイルスと図書館）」『大学図書館研究』第116号, pp. 1-10.
- 三角太郎, 2021, 「新型コロナウイルス感染症対策と大学図書館サービス」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第7号, 155-161.
- 永井伸・堀野陽子, 2021, 「新型コロナウイルス流行下における東北大学附属図書館の取り組み」『図書館雑誌』第114巻第11号, pp. 608-609.
- 鈴木努, 2021, 「報告：コロナ禍での図書館サービス」『ふみくら：早稲田大学図書館報』第99号, pp. 4-5.
- 渡邊由利子・川島隆徳, 2021, 「図書館に関する意識：新型コロナウイルス感染症の影響」『カレントアウェアネス-E』No. 411, E2371, URL: <https://current.ndl.go.jp/e2371>